



「安全」と「チャレンジ」を 両立させる

増田 お客様を大事にする、儲けを大事にするというのは誰でもわかっています。しかし、お客様を大事にしようと思えばコストがかかるとか、儲けようと思えばお客様に不便を感じさせることがあるとか、それは対立すると思われている。私は「そういう単純思考は止めよう」と言っています。お客様を犠牲にしてもいけないし、儲けを犠牲にしてもいけない。その両方を満たす解を求めるのが経営だと言っています。

加藤 それは京阪電車が精神として受け継いでいる創立委員長・渋沢栄一の「道徳経済合一説」とある種通じるところがあります。企業の社会的責任が増すなかで、倫理的観念である経営理念の大切さや、その意味を問い直すことはとても大事だと考えています。

社長就任時、私は「安全とチャレンジ」という方針を打ち出しました。今のお話と同じで、単純思考では、チャレンジしたら安全が損なわれるように感じられる。チャレンジはしても、安全は絶対に守らないといけない。これは当たり前の話で、安全を守りながら、いかにチャレンジしていくか。

私は「安全をしっかり守った上で、チャレンジして前に進もう」と呼び掛けており、かなり社内に浸透しつつあります。いままでの鉄道会社ではやらなかったことにも取り組んできて、ずい分変わってきました。安全は昔から叩き込まれていますから、社員はみんな安全をまず一番に考えるように染み込んでいます。チャレンジするというの

は、非常に難しかったんですが、徐々に進んできたかなと思っています。もともと、増田社長から見ればまだまだとお感じになれるかもしれませんが(笑)。

増田 いえいえ、インフラビジネスとエリア開発やサービス開発というのは全然違うスキルが求められるのに、京阪電車さんのように安全とチャレンジを両立されるのは、すごいと思います。京阪電車さんにはもともとそういうDNAがあるのでしょうか。今後はどのようなチャレンジをされるのですか。

加藤 「くずはモール」をリニューアルして、これまで描いてきた完成形が一つできましたので、数あるチャレンジの一つとして、枚方市駅周辺をもう一度活性化したいと考えています。現状が悪いということではなくて、やはり年月が経ち、多少色あせてきたところがあるのでテコ入れしていきたいと考えています。駅前のいろいろな商業施設から、駅の高架下の商業施設、さらに踏み込んで駅自体もコンセプトを持った「新しいこれからの駅」というものを表せたらとアイデアを練っているところです。

増田 京阪沿線がもっと良くなってもらうことは、沿線の皆さまはもちろん、私のように沿線出身の人間にとっても誇りですから、見たことのないチャレンジを、ぜひやって欲しい。昔、「ひらかたパーク」で大菊人形展が開催されたとき、枚方市民にとっては見たことのないものだったでしょう。みんなが話題にしていたことを覚えています。私も京阪電車には思い出があるので、企画屋として機会があればお手伝いできればと思っています。

加藤 増田社長にご参加いただけるのは、楽しみです。沿線の街がさらに元気になるような企画を、ぜひお待ちしております。本日はありがとうございました。